

なによりも
地球を美しく



CO² 削減、ダイ
オキシン抑制

大幅な減容化

頑丈な作り

高地使用対応
海拔2,000m可

$\frac{1}{300} \sim \frac{1}{500}$

燃料代

電気代

不要



TOBPO
Tokyo Omotesando Brand Promotion Office

W-MTD 量子理論に基づく有機物消滅機（磁気熱分解装置）

W-MTD



湿式排煙装置は街中や船舶など排煙が出ると困る箇所活躍します。匂いや煙を水で洗い流し、外へは出しません。しかし、装置を稼働させるための電力が必要となります。

技術概要

W-MTD は、炉内に送られる僅かな空気と磁力とが、量子理論に基づく反応を起こし高エネルギー状態となることで、炉内の有機物を燃焼させることなく、原子の状態までバラバラに分解することで、処理を行います。

一部、稼働の際、挿入される空気の量が多い場合は多少の炭化が生じますが、その炭化した処理物を再投入して再度分解させることにより粉体となり、処理灰として炉内に残ります。

稼働初期時に僅かな加熱を要しますが、分解反応の熱源に関しては電気、化石燃料などを必要としません。

これは、初期に加熱した有機物が炉内の処理灰に接触することで、有機物の分解が連鎖的に起こり、投入物自体が磁気を帯びた処理灰となり、発熱を起こすためです。

分解の進み具合を見て、処理物の投入を続ける限り、分解反応は続くのでランニングコストは一般の焼却炉に比べ非

常に低コストです。

また、CO² の排出に関しても化石燃料を使用しないため環境にも優しいです。

この W-MTD は有機物全般の処理が可能で、投入物は無分別で差支えありません。プラスチック、紙、樹脂製品、木材など分別無しで投入できます。ただし、含水率が高いもの、生木や野菜くずはそのまま大量に投入してしまうと稼働しづらく、稼働しても処理時間が長くなりますので、炉内に投入する際には、含水率を 20%以下程度にすることが良いと考えます。

投入物は、分解され減少するにつれ、連続的に投入でき、最終的には 1/300 ～ 1/500 にまで減容化されます。

また、無機物は分解されませんが、ビニールに巻かれた電線や、金具混じりのパソコンなども投入は可能で、その内の有機物は分解され、無機物は処理灰に混ざって下に落ちますので、後で篩いにかけて取れば良いと考えます。

世界中で問題の廃プラ解決方法

W-MTD でダイオキシン、CO² の排出を抑制します

基本コンセプト

1, 環境保全

紙おむつ、ペットボトル、マクロプラスチック類の削減

2, コスト削減

ランニングコスト、メンテナンス、導入コスト

3, 山でも海でも使える

燃料・電気不要、移動可能

特徴

- 1, 本体は量子理論を活用したプラントです。本体は焼却処理ではありません。ダイオキシン、CO² の排出を抑制します。
- 2, 運転・稼働時は一切の電力、化石燃料を使用しないで処理できます。
- 3, 廃棄物の量を 1/300 ~ 1/500 に削減できます。
- 4, 本体には一切のメーター、スイッチなどの計器はありません。すべて手作業、人間の目に頼ったプラントです。
- 5, 環境に応じて、どこへでも移動できます。

設置場所例

病院・学校・老人ホーム・ホテル・旅館・各種商業施設・工場・船舶・食品業・畜産業・建設現場・野外イベント会場・団地など、高地2,000mや南極でも活躍します。

○ 処理できるもの

生活ゴミ・紙おむつ等の難燃物・ゴム製品・木材・プラスチック等の石油化学製品・動植物性残渣・農業廃棄物・工業廃棄物・漁網・牛豚鳥の糞・その他

有機物であれば、基本的にどんなものでも処理可能ですが、処理物によっては同じ処理物だけの投入より、一定の割合での混合投入が、より良い処理状態を作ります。専門オペレーターを決定していただき、事前に2日程度の実施指導をいたします。

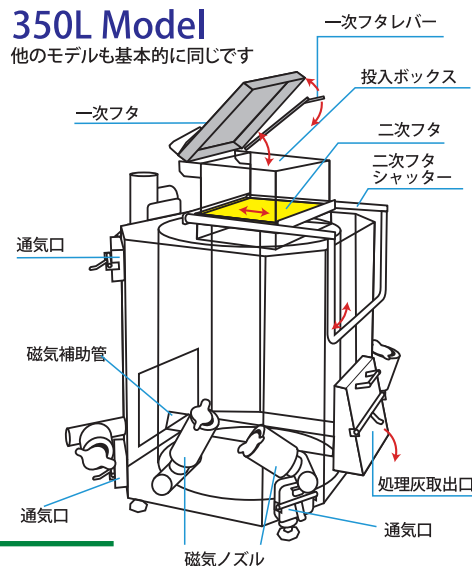
× 処理できないもの

金属類・ガラス類・陶磁器類・土砂・液体など

含水量が多く水分がしたり落ちる物の処理はできません。生木や野菜くず、草、植物、動物糞など含水率の高いものは乾燥させてから処理して下さい。また、炉内の状態や投入量によっては生ゴミだけのものは処理できない場合もあります。処理物によって処理時間が変わります。

350L Model

他のモデルも基本的に同じです



注意項目

- 1, 水が滴る処理物は乾燥させる。
- 2, 処理できるものは有機物です。
- 3, 長いものは破碎するなどして入れてください。
- 4, 処理物によっては乾燥機が必要です。
- 5, 処理時間は処理するものによって変わります。経験とノウハウが多少必要です。
- 6, 性能を維持するには6ヶ月に1度の点検をおすすめします。
- 7, 安全性のため、装置の蓋は同時に開けないで下さい。空気が入り、炎が上がります。
- 8, 排煙装置は湿式で電力が必要です。

W-MTD は焼却炉とは根本的に処理理論が異なっているため、排気温度も極端に低温で 100℃以下であり、更に排気ガス量も 900L 仕様でさえも 60m³/h です。

排出ガス中の有害物質も極端に少なく、また、処理後の残渣量も焼却炉 1/10 に対し 1/300 ~ 1/500 の量です。焼却炉灰は 2 次処理溶融しても減少率は 1/15 程度ですから、W-MTD は溶融より遥かに残渣の量が少ないだけでなく、残渣中の有害物質も極端に少なく焼却炉では達成不可能な高性能さを発揮しています。埋立地の問題で現在、ご使用中の大型焼却炉から出る残渣を W-MTD で再処理し、残渣を少なくする事も一つの方法と考えます。

W-MTD 量子理論に基づく有機物消滅機（磁気熱分解装置）



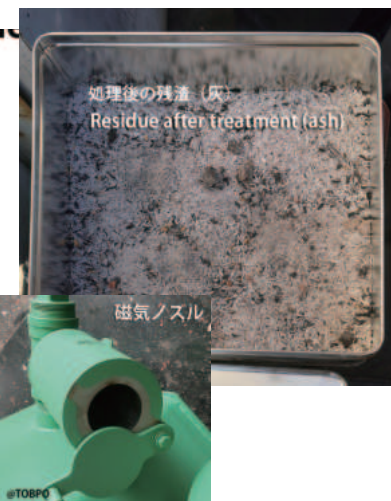
参考資料

磁気熱分解装置W-MTDはダイオキシン類対策特別措置法の特定施設や、煤煙発生施設に該当しないため、排出ガスに対し基準は設けられませんが、参考として同法上の廃棄物焼却炉（規模の小さい焼却炉）における排出基準を下表に示します。参考として当社が販売する磁気熱分解装置W-MTDの排出ガス等の測定値を表示しました。

廃棄物焼却炉の排出基準				磁気熱分解装置
特定施設（ばい煙発生施設）	項目	単位	排出基準	当社データ
*1（火床面積が0.5㎡以上又は処理能力が50kg/h以上） *2（火床面積が2㎡以上又は処理能力が200kg/h以上）	排ガス中ダイオキシン濃度	ng-TEQ/m ³	5	0.061～0.27
	ダスト濃度	g/m ³	0.15	0.0049
	硫黄酸化物濃度	ppm	0.11	0.001
	硫黄酸化物量	m ³ /h	0.16	0.00034
	窒素酸化物濃度	ppm	250	77
	塩化水素濃度	mg/m ³	700	34
	処理残渣中ダイオキシン濃度	ng-TEQ/m ³	3	0.043～0.19
				平成26年1月27日測定

当社が販売する磁気熱分解装置（W-MTD）は焼却炉とは根本的に処理理論が違います。排気温度も極端に低温で100℃以下です。故に環境省が定めている焼却炉の理論は成立しません。排出ガス中の有害物質も極端に少なく又、処理後の残渣量も焼却炉1/10に対し1/300～1/500の量です。焼却炉の灰は2次処理溶融しても減少率は1/15程度であり、磁気熱分解装置は焼却処理より遙かに残渣の量が少ないだけでなく、残渣中の有害物質も極端に少なく焼却炉では達成不可能な高性能さを発揮しています。

600L 仕様の装置は最初の稼働時にボルトを外し、装置一杯に処理物を入れる事が出来ます。以後、連続投入が可能です。



この様な浜辺が有機物消滅機で蘇る

世界中で問題の廃プラ簡単解決方法



TOBPO
© Tokyo Omotesando Brand Promotion Office



<https://ash.okomari.net/>